



奈良先端大 第7回男女共同参画推進シンポジウムを開催しました。

「仕事とコミュニケーション」

10月24日（金）、バイオサイエンス研究科大講義室にて第7回男女共同参画推進シンポジウム（バイオサイエンス研究科との共催）を開催しました。学内外より56名の参加がありました。

高比良室長から開会の挨拶において、女性が輝く社会の実現に向けての国の取り組みや、本学における女性教員の採用割合の具体的な数値目標の設定などについて説明があり、その後、3名の講師に講演をしていただきました。

● 研究室でのコミュニケーションのあり方 —和歌山での経験から学んだこと—

仙波恵美子氏

(和歌山県立医科大学 名誉教授、大阪行岡医療大学 医療学部 理学療法学科 教授)



まず、講師が研究されている、動物の情動と高次脳機能の関連や陽性情動（遊び、喜び、笑い、安心など）における脳のメカニズムなどについて様々なデータを用いて紹介してくださいました。

また講師が所属している学会においては女性初の理事として男女共同参画への積極的な取り組みに尽力してこられました。講師がメンバーとなった国際的な委員会における女性の割合は半数近くを占めており、それは世界的には常識である、ということに世界と日本との意識の差を痛感されたそうです。

また、現在の日本において女性が置かれている環境・現状や、国の取り組みについても言及され、真の女性活躍の社会実現のための社会全体としての意識改革の必要性について述べられました。

最後に、講師の経験としてモラハラ（モラル・ハラスメント）の紹介があり、言葉の暴力やモラハラは職場や身の回りの身近なところに蔓延していること、特に大学の研究室など閉鎖的な環境において起こりやすいということから、大学が組織としてどう対処するべきかという対策法についても問題提起されました。

● 『できる』を『できた』に…その感動がやみつきに

山田由佳氏

(パナソニック株式会社 先端研究本部 材料研究室 環境材料研究部長)

講師は大学卒業後パナソニック入社以来、レーザープロセッシング、ナノ粒子技術、創エネデバイスの研究開発と、一貫して研究所に勤務されてきました。2013年12月にはウーマンオブザイヤー・リーダー部門を受賞され世界最高性能を達成した「人工光合成」や世界初「熱発電チューブ」の研究開発を成功に導いたリーダーとして評価されました。

講師の所属される先端研究本部におけるミッションは新たな技術コンセプトを「創造」することであり、『できる』と新たなコンセプトを考え付いた時（創）、そして『できた』と実際に形にした時（造）、快感・感動を味わえる瞬間でありその瞬間を求めてメンバーとともに日々チャレンジし、悔いのないよう全力で取り組んでおられるとのこと。

企業においては、大学と違って自分と同じ技術分野の人が身近にいないことも多く、研究開発の本質である知恵と行動力を存分に発揮して先端研究に取り組んでいく姿勢がこれから研究者を目指していく人に必要なこと、と述べられました。



● 子供の病気で仕事を休むのは気を遣う？

宗景ゆり氏 (奈良先端大 バイオサイエンス研究科 助教)



講師は、本学において博士号取得後、妊娠、子育てと研究を両立してこられました。特別研究員として過ごしたフランスでは、研究者の家庭と研究との両立における価値観の違いに驚かれたそうです。

講師のご主人も研究者であり、夫婦で協力しながら現在まで研究を続けられてきたこと、また本学の参画室設置後の学内の様々な制度改革等により、研究を継続していく環境が整えられたこと、などについてお話しされました。

また、本学における女性研究者の数の推移をみながら、大学における女性研究者登用のあり方などについて意見を述べられました。

女性だけでなく、男性も仕事と家庭を両立させるためには、周囲の理解と、職場の環境や制度改革などの意識改革及び環境整備などが必要であることについて話されました。

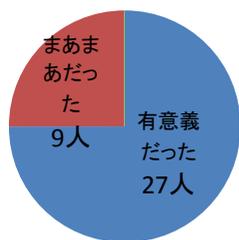
～シンポジウムについてのアンケート結果～

来場者56人のうち、38名の方にアンケートをご協力していただきました。
おもな結果はこちら。

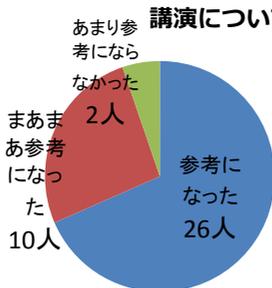
今後希望するテーマについて

- ・仕事の困難を乗り越えるには
- ・男性の意見を聞くような場に

内容について



講演について



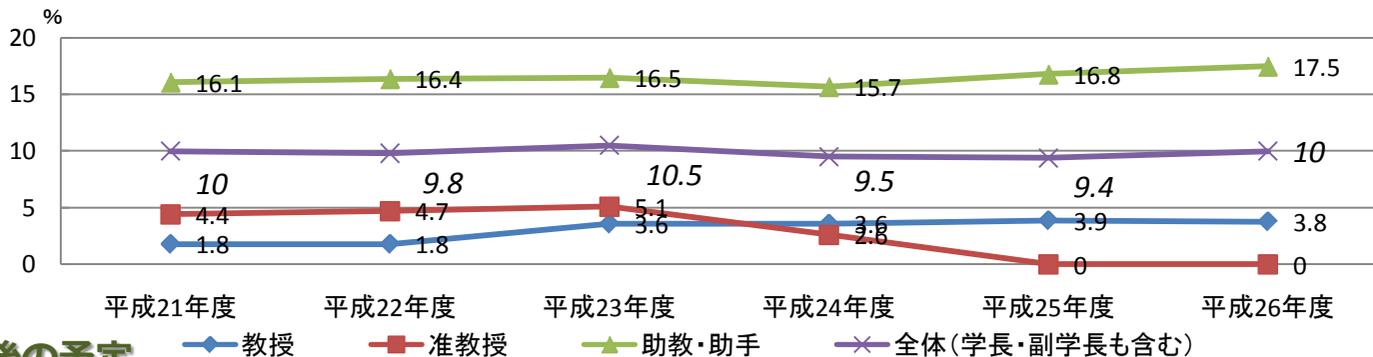
参加者の感想から・・・

- ・実際に先端大で勤めてらっしゃる女性の方のお話が聞けて良かったです
- ・子育てをしながら働ける職場を目指していきたいです

シンポジウムには多数のご参加をいただき、ありがとうございました。
大学、企業等それぞれ異なる立場から講師自らの実体験等を踏まえ、職場環境や周囲とのコミュニケーションのあり方についてお話していただきました。
現在の日本社会において女性が置かれている環境や現状、いじめなどのハラスメント問題について、またこれからの奈良先端大における女性登用のあり方についても話が、非常に有意義なシンポジウムになったと思います。



NAISTの男女共同参画に関する数字 ～本学の女性教員の割合～



今後の予定

- 11月 ・女性研究者研究活動支援事業シンポジウム2014に参加 (26日)
- ・平成26年度第2回男女共同参画推進委員会 (日程未定)
- 12月 ・スタートアップ研究費報告会 (8日)

お知らせ

IEEE関西支部WIE 設立総会・キックオフシンポジウム



IEEE関西支部WIE Affinity Groupの設立にあたり、設立総会、及びキックオフイベントが行われます。
シンポジウムでは工学系、情報系で活躍する女性研究者たちの活躍を紹介するとともに、女性研究者、若い世代たちの女性たち、女性の活躍の支援者などの交流の場を設けることで理系の中でも、工学系、情報系といったまだまだ女性の少ない分野でのキャリアの魅力を発信していきます。理系の進学、大学院、研究者としてのキャリアなどについてみんなで考えましょう。

【開催日時】 11月22日(土) 13:30～16:30 (受付開始 13:00)

【場所】 大阪大学 中之島センター 301講義室

【参加費】 無料

【記念講演】 ・私のキャリアにスイッチが入った時 ～女性技術者のキャリア形成の一事例～
富士通研究所ものづくり技術研究所 シニアディレクター 山本里枝子氏
・脳・学習モデル・経済・精神疾患：学際研究の現場から

(株)国際電気通信基礎技術研究所 脳情報通信総合研究所 専任研究員 田中沙織氏

【申込先】 <https://ssl.kokucheese.com/event/entry/221970/>

